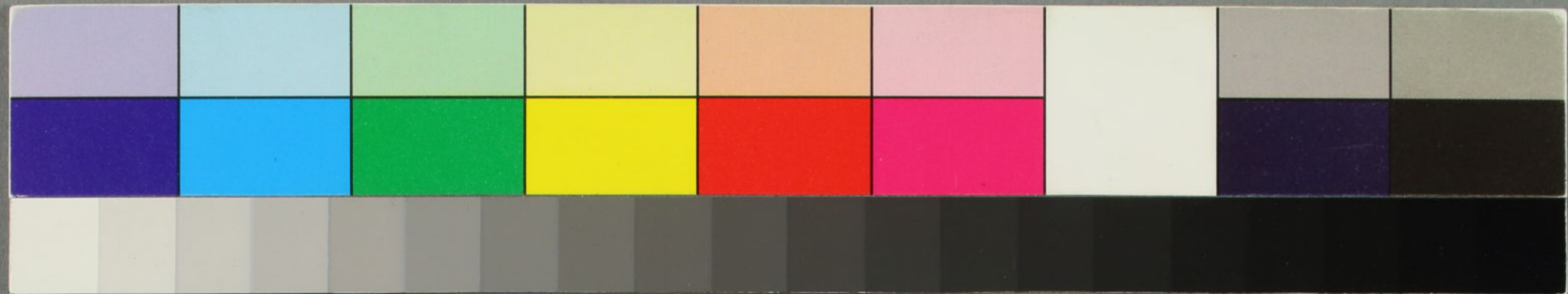


役者評判記

千13
3851
19





後者三都監
上

世

多子
13



特

チ 13
3851
巻 19

19

役者三都鑑

藝品定



京大坂之巻目錄

夫都 吾妻浪花三津子都こゝろ

天地人小表こゝろ古くへり絶え

鑑あきふ其その鯨くじら榮えい乃の流ながるる小こ倉くら

二都ふたの夫おと倉くらお音ね半はんへて天あまの

岩戸いわ子こ幕まくら响ひびりりととふふく

の一番いちばん太た鞆たも打うち物もの八や百ひゃく万まんの

御見物ごみぶつの客きやくははいい小こははととむ

のの顔かほ見み世よのの大おほ入い積つみ出でる

蔵入くらいりとと此こゝ處ところより外ほかへへややりりと

三

京大坂

此牌此下で一寸とす。

既記 只今評判の如く扱のく河好者極方許
寄合は成下迄くお供仕し申り奉り例年
如く類見世大般若昌文より替治花芝居敷
焼の後も勢ひ終皆く是疾重積も思ひの
外子小出事仕返く真形お成りしと無過
危見世の時候小あり兩社共何の沙汰も
争ひ乞合先比分梅出丈備申交前芝居
おわり申すも高主故と存布申すも霜降申
洗掃坂有之は未何の言も申す時中
こと竹本播磨大塚屋とく掃りの類見世
真形との変款意故の類見世と申す
時前小擇りしはせと申すく為成
分亦存付申す申す申す申す申す申す
神主の砌が上り申す申す申す申す申す
是如子の奉類見世吉例病を求定の儀式は
更い候候すての上上極、是より申す
子正月吉
評判如
頭取

系大坂大差系後若目録

系四條北側系若名代 早急長志夫
大坂の松竹田系 名代 坂倉九左衛門
真田山 寄進芝居 座本 坂東龜太郎
植荷社
○是之猪國社里の名小くしたのじ
△中へ他申す申す申すの教で申す申す
過年の大坂大差系も申す申す申す申す
別して申す申す申す申す申す申す

▲熱巻頭

至上吉

関三十席

極言いりし目のつんど為之

至上吉

坂東寄席

どお入てもあかぬあかぬのあり 抵家所

▲之役之部

上吉

嵐揚三席

だんくくと花と咲を 室の津

上吉

中山文七

天海時代か余程おれも 古市

上書 小川春太郎 奇進

いつてもちし後ふみよ 新田

上書 市川物十郎 日

たまごのの肩てくる 坂町

上書 中村秋七 △

いりてもほくしい 我勝

上書 市川市松 △

だんぐ 榎ナ屋のまごを榎木所

上書 嵐三六郎 △

あふ付いこいお茶種は教

上書 市川流流 △

何段でもろ小ころ 榎幸

上書 大谷栄友 △

りまのいと仕うかあ 坂町

上書 市川三十 △

あつと 又功をつむ 石垣

上書 中村玉之助 △

市親父のまろくえんゆつ 菅茶屋

上書 嵐春十郎 △

藝の仕うかあ 本村

上書 嵐雛助 △

お名主人にまろくえんか 金内

上書 坂東重太郎 △

お婆いこいれまえんあ 清水

上書 嵐春三郎 △

あおお名とあげん 水谷

上書 嵐徳三郎 △

お名主人にまろくえんか 観音

上書 市川新三郎 △

いごん何でもろくえん おせす

上書 市川春太郎 △

近頃お名とあげん 水野

上書 浅尾徳太郎 △

浅尾徳太郎 水野

上書 浅尾八百蔵 △

浅尾八百蔵 日片

上書 浅尾重太郎 △

浅尾重太郎 古川

上書

淡尾奥山 奇道

上書

嵐園八 口屋

上書

淡尾玄苑 口屋

上書

嵐舎九 口屋

上書

中村元好 牧方

上書

坂東園又希 口屋

上書

中村東苑 口屋

上書

三林松又希 口屋

上書

市川市露 口屋

さうさひあさひの

チトらのとちてり

どんくくとあま

くらごのま

嵐のはら

宝物とら

さしあま

ユミのあ

多段ふら

上書

行雲蝶十希 △

上書

近江お歌のんへぬ △

上書

淡尾秋世希 △

上書

多道りい △

上書

嵐東苑 △

上書

大分年切 △

上書

淡尾國六希 △

上書

嵐冠三希 △

上書

中村仲希 △

上書

嵐岩六希 △

上上吉

実徳巻四

中山新ひ部

ゆがひ

後言ハ後分去りたる部

実徳

後尾國又部

△

巻編

実徳の内小宛はあやうい

嵐冠十部

ゆがひ

久しくこの部にてゆがひ

▲道外長車形之部

上吉

法村長四部

ゆがひ

一流ありおのり

上上

小川又九部

ゆがひ

長車がこの方おのり

上上

坂東岩之部

△

上上

法村其市

ゆがひ

上上

嵐冠十部

上中ぬ致部

若女夜

▲若女形之部

上上吉

中村松江

ゆがひ

巻頭

澤村團之部

ゆがひ

上上

津西人の出部

ゆがひ

上吉

嵐のふ

△

上吉

蘇たよりけり

ゆがひ

上吉

嵐博光

△

上吉

女形後い

ゆがひ

上吉

中村秋路

△

上吉

さうあり

ゆがひ

上吉

津川路之部

ゆがひ

上吉

後言の仕

ゆがひ

上吉

中村秋女

△

上吉

後中のお

世三

上吉

嵐春之助

ゆがひ

上吉

このふ

ゆがひ

上吉

所尾

ゆがひ

上上

女が

三

上上

嵐三

△

上上

お娘

ゆがひ

上上

後尾

ゆがひ

上上

お娘

ゆがひ

上上

お娘

ゆがひ

上上

お娘

ゆがひ

上中

市川かしの 水が
中村おの江 日往
中村まの里 △

市川南之助 △
あつら

上上

尾川安之助 芳進
嵐小雛 △
中村清之助 △
嵐富之助 水が
沢村あき 日往

晴出てあくとつめく富山

上上

芳沢彦次郎 水が
中村松三郎 日往
沢村雛吉 日往
沢村里蝶 芳進
つれもあつらにのしん 新宅
沢村春柳 水が
中山吾松 日往

上上

上上

中村しんじ 水が
坂川友菊 芳進
中山菊次郎 日往
嵐きん吾 日往
嵐徳吉 △

女ごこの 気性ちま 芳進

上中

浅尾南次郎 芳進
あやじ 水が及秀とあひ接ぐ枝

上上

嵐富三郎 水が
藤の仕うら角のあ丸山
藤川女吉 芳進

上上

ふやうあまの風とあひ接ぐ柳の藤
▲角野娘秋子役と郎

上上

関ここち郎 水が
中村欽柳 日
嵐芳三郎 日
沢村春吉 日
つれもあつらにのしん 新宅

上上

市川善太郎 小がら
嵐橋之助 日

坂东彦太郎 日
坂东定兵衛 日

浅尾延三郎 日
浅尾初太郎 日

浅尾次太郎 日
浅尾重太郎 日

尾上馬之助 日
坂东彦太郎 日

坂川勝三郎 日
市川三郎 日

市川照太郎 日
市川三郎 日

市川秀太郎 日
大谷好太郎 日

市川紅太郎 日
市川九太郎 日

上中

は内山いらくある 経漢家

浅尾彦太郎 日 一 嵐 佐木三吉

市川次太郎 日 一 浅村善吉

市川照太郎 日 一 市川三郎

市川秀太郎 日 一 中村頼之助

市川紅太郎 日 一 大谷好太郎

市川九太郎 日 一 市川九太郎

浅尾政太郎 日 一 中村進之助

浅尾源之助 日 一 所 忠之助

市川善太郎 日 一 中村三郎

市川三郎 日 一 中村好太郎

市川小太郎 日 一 中村好太郎

頭取之部

中山甚太郎 小がら

嵐橋三郎 寺進

相の若杉十郎 日

浅尾彦太郎 日

坂東團右衛門 日

魚巻煙

至善書

市川團右衛門 小がら

このへで 薩摩の地を其の新聞

魚 後見

魚類

中村秋太郎 日

竹とかなで 寺進の 新書

○しんとお知りせし中よあり。

文政十年庚申二月十九日

在言作者

花鳥請願信士 匿名濱松歌園

寺の答由簡を以て 行年五十二才

天徳寺

近所の遠祖者の氣中退く記を於て其人の
の形も又公侯松氏も苗原泉の祖者とも
まうの祖く 跡念あるまゝなり并殿方
標中もよるし 法向向於とやらあり。

○此の寺よりせし上あり

文政十年庚申七月十日

匿名

市川殿十郎

行年五十一才

大福院

○此の寺よりせし上あり
上方で実悪の數聞の横十位安でとる外
まゝ申付たりあり 將高橋より出動する者教
燒後の系部におせり 申段中の其子一人
○此の寺よりせし上あり
番番典殿殿又月替り 核物強切八百度
歎息此程善終より善聲の名称とあり

○此の寺よりせし上あり

人のいふ所でもあられなきも此の寺の
徳と長生に和の元とありありとありあり
中にもある市川殿十郎の引合あり
故人市川殿の内へあり 十三の以定改元も
の六月の初めをとりて 市川市川と名
ある寺ありとあり 御舞臺の中へあり
寺の所にお役ありあり 府人の御舞臺あり
まゝあり 軍大夫軍房 系勝や 核物強切の
奥の殿ありあり 此の寺の御舞臺あり
のりとも雨候に 核物強切あり 坂田
女房の中へ御舞臺あり 市川殿十郎あり
あつたりあり 三つありあり 故人ありあり
は所候に 核物強切あり 小ありありあり
志くありあり 実悪の御舞臺ありありあり
かほして 大連者ありありありありあり
よりありあり 御舞臺ありありありありあり
まゝありあり 實悪の御舞臺ありありありあり
の御舞臺ありあり 實悪の御舞臺ありあり

出動は大佐佐のつとふは信何れも人
勢相や評ふそぬ後系は居のし極りて
尚ほ許の蘇十郎と云はれ居る者よきまうと来
後ハ各捕もしくぬ中ハ見ればたてにさす
[西]夏の暮掛掛掃をうけおぼ後ハ後市江
女山兩要者女兩人と見たおめて置の掃のて
あがり方でいふこと[西]捕時地系もやか
かく二通りのハハの役にお替あてこんがらひ
てハ情のたてごころ中と今おひ出しはり
[西]山西如漢とて居のあちやうと顔史と
の由合もよかるゆき後車は場とてま肩
経神は守て露のももあひあつと云はれ外
あははもの老練令く[西]大切急登場とて亭
まはれ助やごころなまそく大でそく[西]
右は様せんさうは流西二百五夜の就焼
てそやうゆとおかそれらう沖と系とそ登揮
中典前中[西]人急掃路とてくやあへ
かひれと路のちりりとそ業和りてり
とちりやごころなまそく底き地の酒
やん中元かごころ川東とてうり港月入の場
りかてういお山東中かごころ中かごころ
[西]は役は漢多系とてゆめては居場かご
はれてハ高りの様言大並居うそ大を並史
かおまの様言小役てごころまごころ
勢掃史も修丹治と積合のらふふらう
[西]うり様積物掃と後連入に後漢の
らうらとあてこくうは情もくやせぬそ
漢井ま根[西]そと役ごころうらうに
奥はてふとて山西と園を并史と三人の由
合の西とんを和らあひらうせむかごころ[西]
洛陽の貴族とて入らぬ後うけ就又うらひ
えのうらふかう[西]清後ハ西者の地
と出て就又とてあごごころおまのやとて
[西]加根の八百屋のちむと中やとてあご
ち連ひらやいゆうのうり史は後ハ西者の
はあが申のやとてあごごころ[西]時とてあご
人よごごころの後とてあごごころあご
りの[西]朝とてあごごころのつとふは信何れも人
りよゆむとてあごごころ[西]史とてあご
あごごころのつとふは信何れも人
あごごころのつとふは信何れも人

はれてハ高りの様言大並居うそ大を並史
かおまの様言小役てごころまごころ
勢掃史も修丹治と積合のらふふらう
[西]うり様積物掃と後連入に後漢の
らうらとあてこくうは情もくやせぬそ
漢井ま根[西]そと役ごころうらうに
奥はてふとて山西と園を并史と三人の由
合の西とんを和らあひらうせむかごころ[西]
洛陽の貴族とて入らぬ後うけ就又うらひ
えのうらふかう[西]清後ハ西者の地
と出て就又とてあごごころおまのやとて
[西]加根の八百屋のちむと中やとてあご
ち連ひらやいゆうのうり史は後ハ西者の
はあが申のやとてあごごころ[西]時とてあご
人よごごころの後とてあごごころあご
りの[西]朝とてあごごころのつとふは信何れも人
りよゆむとてあごごころ[西]史とてあご
あごごころのつとふは信何れも人
あごごころのつとふは信何れも人

三十一

三十一

三つ身の内れごまの二つは秋の終りてとて徳美花
安藤通全を徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
まの二つは徳美花の本名は徳美花と云ふは徳美花
が徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
西の老を徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
此徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云ふは徳美花
六美徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云ふは徳美花
息二徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云ふは徳美花
の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云ふは徳美花
一徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云

信名 中ぬ山三三

徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云

徳美花の色 徳美花の色

徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云

徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云
徳美花の徳美花と云ふは徳美花の徳美花と云

かきつゝの卒^{しゆ}本^{ほん}を^をみ^み御^ご入^い本^{ほん}を^をみ^みと^とり
せと^とやめ^めて^て其^{その}意^いの^のお^おは^はり^り果^は
て^て人^{ひと}も^もた^たの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり
ま^まり^り連^{れん}人^{にん}を^を治^ちす^す地^ちを^を治^ちす^す事^{こと}ある^る
者^{もの}右^{みぎ}之^の政^{せい}承^{しょう}知^ちり^りあ^あり^りて^てあ^あり^りて^てあ^あり^り
つ^つて^てい^いは^はぢ^ぢや^やれ^れ一^{いっ}つ^つと^とよ^よう^う
[監]これ^{これ}ら^らの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり
[監]承^{しょう}知^ちり^りの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

化者 八文舎自笑
梅枝軒泊寫

文政十一年
戊子正月吉日

▲惣巻頭

至^し上^{じやう}書^{しよ} 関^{かん} 三十^{さんじゅう}帝^{てい} 水^{みづ}が

至^し上^{じやう}書^{しよ} 坂^{さか}東^{とう}書^{しよ}帝^{てい} 書^{しよ}は

[監]各^{かく}極^{ごく}也^やも^も遠^{えん}洋^{やう}の^の亦^{また}列^{れつ}と^とも^もあ^あら^らむ^む

殊^{こと}教^{きやう}訓^{くん}を^を守^{まも}り^りて^てあ^あら^らむ^む事^{こと}な^なり^りと^とり

五^ご極^{ごく}を^を守^{まも}り^りて^てあ^あら^らむ^む事^{こと}な^なり^りと^とり

三^{さん}つ^つ外^{がい}擧^{きよ}げ^げ 下^{した}何^{なに}の^のい^いか^か高^{たか}時^{とき}何^{なに}か

遠^{とほ}ひ^ひの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

わ^わび^びた^たり^りと^とり

日^{にっ}三^{さん}河^かを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

か^かの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

か^かの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

ま^まり^りと^とり

月^{げつ}於^おの^のま^まを^をみ^みた^たれ^れば^ばま^まり^りと^とり

トものしる会のみが来集りしにあつたて
希ふもあつしあつしとる人おつた成り
らふての事遠うつたしつたはに
希くても今の男も病つた奥に
その程がよむれどもあつた
醫今方病つたもやせぬ中
のれたのを病つたあつた
三つ外は病つたあつた
片一尾の辨別は病つたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

拒否は村集り後序の事
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

長崎歌撰
代巻
長崎歌撰
代巻
長崎歌撰
代巻



茶丸
玄久

中村
松江

三平
おん

沢村
國太郎

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

三平
おん

紫泉の三幕被念のくわゆるかまな
 うはへ行ぬも中振あつちをぬ初法南坊
 かく其六洲を成く[四]宮宮く大角の庄
 當信出来信新新新新新新と又信ふ
 致約長をや[五]角力場本名不出[六]
 七か新七新新新新新新新新新新
 湯屋大角自か小の角(角)新新新
 見せふか多き新新新新新新新新
 茶屋物と二二角と春と新新新新
 ゆるまのを持よ新新新新新新
 以新新新新新新新新新新新
 九と新新新新新新新新新新新
 今新新新新新新新新新新新
 二れもよふんがふ新新新新新新
 ぶら申し[七]新新新新新新新新

新新新新新新新新新新新新
 十次多新新新新新新新新新新
 賣新新新新新新新新新新新
 三つとれい新新新新新新新新
 ろつと目と付新新新新新新新
 ろつと目と付新新新新新新新
 のみ新新新新新新新新新新
 宜百河内新新新新新新新新
 へ新新新新新新新新新新新
 新新新新新新新新新新新
 の十次多である[八]新新新新
 新新新新新新新新新新新
 新新新新新新新新新新新
 新新新新新新新新新新新

志願の種とありて遠く地味を説くの中へ千

つうのゆゑ □ 物にひたひたあはす □ 物にひたひたあはす □

とありき □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

丹也其後 □ 又聖賢の徳を指し示す □ 又聖賢の徳を指し示す □

あるまじき □ 徳を指し示す □ 徳を指し示す □

せむ □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

回の上 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

未 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

辨 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

と □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

新 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

神 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

も □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

七 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

お □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

ては □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

お □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

も □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

神 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

も □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

新 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

神 □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

も □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

の □ 聖賢の徳を指し示す □ 聖賢の徳を指し示す □

出合に番頭をて控へ置りて物成り申すは
 二丁^〇に申すは番頭の申すは^〇に申すは
 井筒の番頭申すは^〇に申すは
 久平内膳の申すは^〇に申すは
 長吉の申すは^〇に申すは
 終吉の申すは^〇に申すは
 後中切判事^〇の法合^〇に申すは
 上二級半高^〇に申すは
 出見^〇に申すは
 百持^〇に申すは
 出見^〇に申すは
 出見^〇に申すは
 出見^〇に申すは
 出見^〇に申すは
 出見^〇に申すは

^〇申すは^〇に申すは
^〇申すは^〇に申すは
^〇申すは^〇に申すは
^〇申すは^〇に申すは

申すは^〇に申すは
 申すは^〇に申すは
 申すは^〇に申すは
 申すは^〇に申すは
 申すは^〇に申すは
 申すは^〇に申すは

〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは

〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは
 〇申すは^〇に申すは

てさうして[四]七れ分場へは出動して後市の
例に後儀は長儀の助役[五]おぼえがで
らでござりしと傳はる幕後孫傳阿の取
中かやく助平とよ儀他との甲園三玉の
り役おぼえのめりたる[六]隅川
かとの女おぼえ[七]影北山の野地を去り
まはるを言ふとせりし様ゆゑ腰越伝の
り役おぼえ[八]隅川角の河原様と申す
る様ゆゑのよめは役にお勤めなされ
てお勤め申す[九]おまは院女殿を傳
はし給ひ若衆[一〇]おまは院進を去り
は出動して長儀海道へお勤め申す
切替は後儀と井原に傳はる役にお勤め
かくお勤め申す[一一]おまは院七ノ下は
みとゆてお勤め申す

上上書 回 市川助十郎 寄進

[一二]市川助十郎の出立は長儀の御入
り申す[一三]おまは院は山橋と申す
申す[一四]おまは院は山橋と申す
申す[一五]おまは院は山橋と申す
申す[一六]おまは院は山橋と申す
申す[一七]おまは院は山橋と申す
申す[一八]おまは院は山橋と申す
申す[一九]おまは院は山橋と申す
申す[二〇]おまは院は山橋と申す
申す[二一]おまは院は山橋と申す
申す[二二]おまは院は山橋と申す
申す[二三]おまは院は山橋と申す
申す[二四]おまは院は山橋と申す
申す[二五]おまは院は山橋と申す
申す[二六]おまは院は山橋と申す
申す[二七]おまは院は山橋と申す
申す[二八]おまは院は山橋と申す
申す[二九]おまは院は山橋と申す
申す[三〇]おまは院は山橋と申す
申す[三一]おまは院は山橋と申す
申す[三二]おまは院は山橋と申す
申す[三三]おまは院は山橋と申す
申す[三四]おまは院は山橋と申す
申す[三五]おまは院は山橋と申す
申す[三六]おまは院は山橋と申す
申す[三七]おまは院は山橋と申す
申す[三八]おまは院は山橋と申す
申す[三九]おまは院は山橋と申す
申す[四〇]おまは院は山橋と申す
申す[四一]おまは院は山橋と申す
申す[四二]おまは院は山橋と申す
申す[四三]おまは院は山橋と申す
申す[四四]おまは院は山橋と申す
申す[四五]おまは院は山橋と申す
申す[四六]おまは院は山橋と申す
申す[四七]おまは院は山橋と申す
申す[四八]おまは院は山橋と申す
申す[四九]おまは院は山橋と申す
申す[五〇]おまは院は山橋と申す
申す[五一]おまは院は山橋と申す
申す[五二]おまは院は山橋と申す
申す[五三]おまは院は山橋と申す
申す[五四]おまは院は山橋と申す
申す[五五]おまは院は山橋と申す
申す[五六]おまは院は山橋と申す
申す[五七]おまは院は山橋と申す
申す[五八]おまは院は山橋と申す
申す[五九]おまは院は山橋と申す
申す[六〇]おまは院は山橋と申す
申す[六一]おまは院は山橋と申す
申す[六二]おまは院は山橋と申す
申す[六三]おまは院は山橋と申す
申す[六四]おまは院は山橋と申す
申す[六五]おまは院は山橋と申す
申す[六六]おまは院は山橋と申す
申す[六七]おまは院は山橋と申す
申す[六八]おまは院は山橋と申す
申す[六九]おまは院は山橋と申す
申す[七〇]おまは院は山橋と申す
申す[七一]おまは院は山橋と申す
申す[七二]おまは院は山橋と申す
申す[七三]おまは院は山橋と申す
申す[七四]おまは院は山橋と申す
申す[七五]おまは院は山橋と申す
申す[七六]おまは院は山橋と申す
申す[七七]おまは院は山橋と申す
申す[七八]おまは院は山橋と申す
申す[七九]おまは院は山橋と申す
申す[八〇]おまは院は山橋と申す
申す[八一]おまは院は山橋と申す
申す[八二]おまは院は山橋と申す
申す[八三]おまは院は山橋と申す
申す[八四]おまは院は山橋と申す
申す[八五]おまは院は山橋と申す
申す[八六]おまは院は山橋と申す
申す[八七]おまは院は山橋と申す
申す[八八]おまは院は山橋と申す
申す[八九]おまは院は山橋と申す
申す[九〇]おまは院は山橋と申す
申す[九一]おまは院は山橋と申す
申す[九二]おまは院は山橋と申す
申す[九三]おまは院は山橋と申す
申す[九四]おまは院は山橋と申す
申す[九五]おまは院は山橋と申す
申す[九六]おまは院は山橋と申す
申す[九七]おまは院は山橋と申す
申す[九八]おまは院は山橋と申す
申す[九九]おまは院は山橋と申す
申す[一〇〇]おまは院は山橋と申す

お勤めさすへ八百より名を光合
お上向是たのち若衆競ひの二被也又
大さの許も[名]名を光合のりうぬ交
がらう中と[名]は彼は坂も未付と
進登のお勤め書海なるはち出の目
厚三帯懐のり名を八をぬのれうか
ふぬし[名]持下未付と未付の森登へ
押出勤と名もく

上上吉 中村款七 △

[名]お勤めの松登名成でござる[名]お
でらうらぬ同のどもを[名]持出携お石
塚も同原原名中か[名]三年は好開
お勤めさすへ[名]市の勤め名は謙恭
兼時さすへ[名]中と[名]お勤めの
新地を去るお勤め平名堂法二年

お勤めさすへ[名]お勤めさすへ
お先名松女登名小し被[名]相ぶさ
お勤めさすへ[名]お勤めさすへ
く[名]お勤めさすへお勤めさすへ
二年孫名同[名]お勤めさすへ
うかお勤めさすへお勤めさすへ
お勤めさすへお勤めさすへ
美んてお勤めさすへお勤めさすへ
後かお勤めさすへお勤めさすへ
後同書お勤めさすへお勤めさすへ
かお勤めさすへお勤めさすへ
お勤めさすへお勤めさすへ

上上吉 市川市箱 △

[名]お勤めさすへお勤めさすへ
お勤めさすへお勤めさすへ

小ぢりぬり文終りし情が出ぬの程は極まり
 石田依吉被[〓]石橋の事[〓]とて
 ちやうど[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 ちやうど[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 同様の勳[〓]光平光増と其の
 可[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 橋井守[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 治[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 就[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 度[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 程[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 以[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 所[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 出[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]

此[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 深[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 橋[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 の[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 花[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 千[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 る[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 既[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 此[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 及[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 泉[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 小[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 橋[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 此[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]
 此[〓]の事[〓]とて[〓]の事[〓]

疎会く **[時]** 妻の後く新井女の出り
 程迄出つた事あるを隠して置けり
 されども下り申すべし

上十 梶三文糸 出

[時] 糸屋のいと身も後の出候て糸并
 糸多し申す候後かかむ申す候事
 候は候事申す申す候事申す候事
 おり申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 三浦が候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事
 申す候事申す候事申す候事

上十 回 市川丸勝 出

[時] 井筒屋候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事
 候事申す候事申す候事申す候事

子と懸仁は事年長為。情さの二級
とも沖切者

上上 ⊕ 大後案女 △

圓 的右左史控由揚油後平案様
関は依市核物浪と流因或は昔也
そは世動か〜と成て

上上 回 市川三平 △

圓 名昔歴光性物揚合長る皇
え古件遠送〜と身向合志方々
今揚也志安之公器中三平之人
成〜とあ〜と〜と成世動也
光心出様〜

上上 ⊗ 中村出の助 △

圓 京府歴の義者方中〜と成
分形控中様と石田依者清波の原て
圓 三史との案令〜と成の海〜と成
又 市の例史と平方中〜と成令七の力
延〜と成外〜と成〜と成満岡門は
成〜と成〜と成〜と成〜と成
平中村義大銀源通平の〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成

上上 ⊕ 直巻十命 出六

圓 直巻と史者〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成
成〜と成〜と成〜と成〜と成

上上 ◎ 嵐雛助 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

上上 ◎ 坂東重文郎 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

上上 ◎ 嵐吉三郎 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

上上 ◎ 嵐徳三郎 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

上上 ◎ 市川新四郎 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

上上 ◎ 市川長太郎 考述

【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり
【市川】橋本の安の孫の嵐と改名
の重の三は味が雛と改名表あり

時分ハ永く角の芝居の技本と称され
 申すは及角の座伴松城と云はれ
 申すは及角の座伴松城と云はれ
 申すは及角の座伴松城と云はれ
 申すは及角の座伴松城と云はれ

上上



淡尾三糸 中
 淡尾八百穂 日
 淡尾五文糸 △
 淡尾三糸 中
 淡尾八百穂 日
 淡尾五文糸 △
 淡尾三糸 中
 淡尾八百穂 日
 淡尾五文糸 △

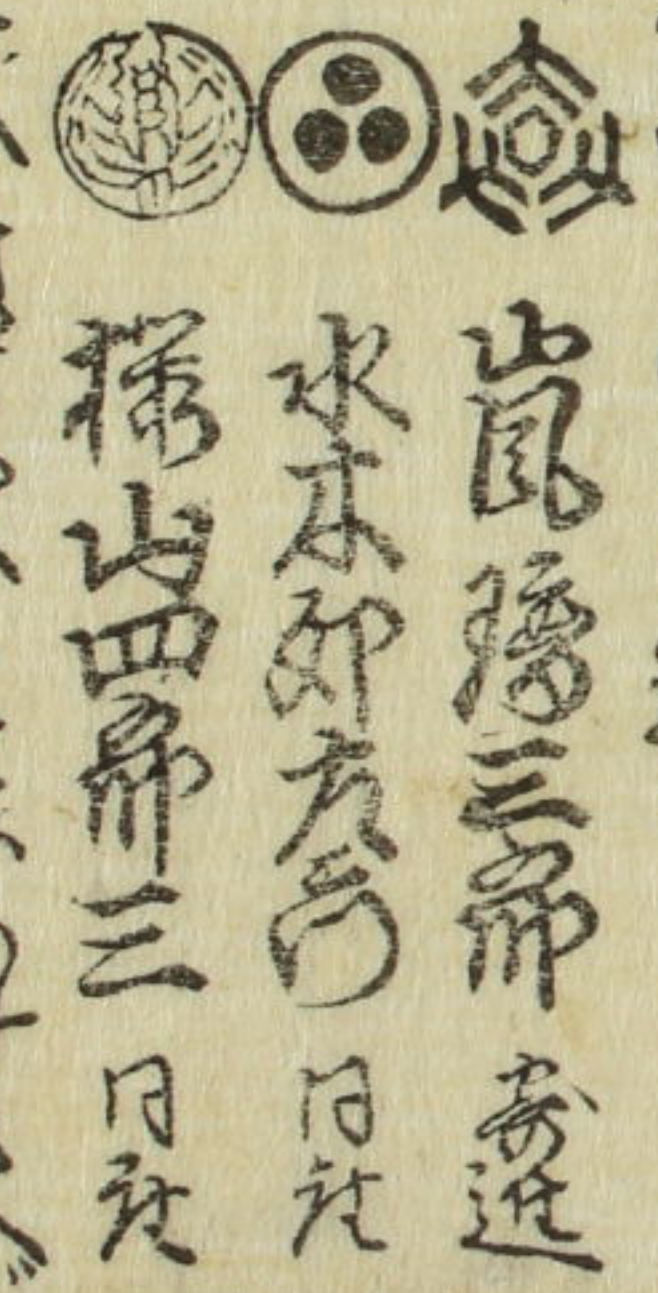
上上



中村歌路之助 △

中村氏ハ...
 中村氏ハ...
 中村氏ハ...
 中村氏ハ...
 中村氏ハ...

上上



山嵐三糸 近
 水本卯方 日
 稀山四糸 日
 山嵐三糸 近
 水本卯方 日
 稀山四糸 日

おと平任のお勤事益極、後世に及ぶ事
後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

○其外のも役流中の目録花がりの

功吉  嵐 東 芝 △

勤事益極の中より尚幸など本任のお
勤事益極、後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

立役者箱
立上吉  東 尾 頼 千 希 中 芝

後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

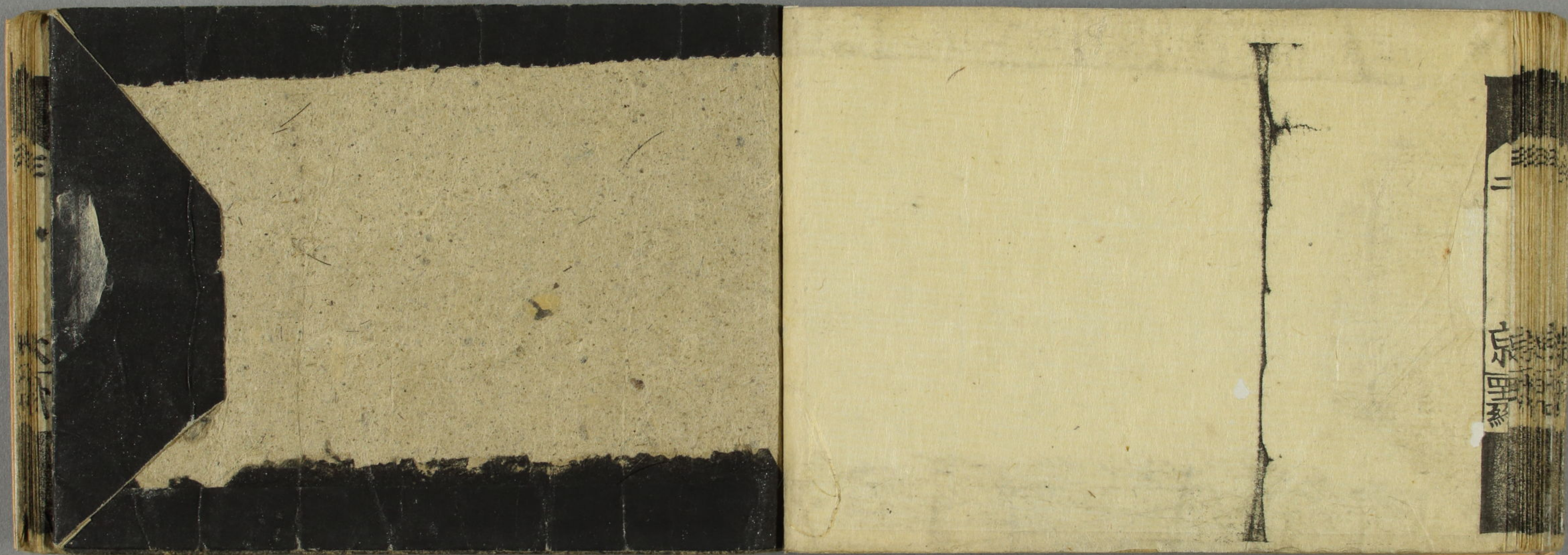
後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

後田おたの御方より○操内政の及くま
山田勤女益極、培田益極、前後勤女を
中へおくれり事なり

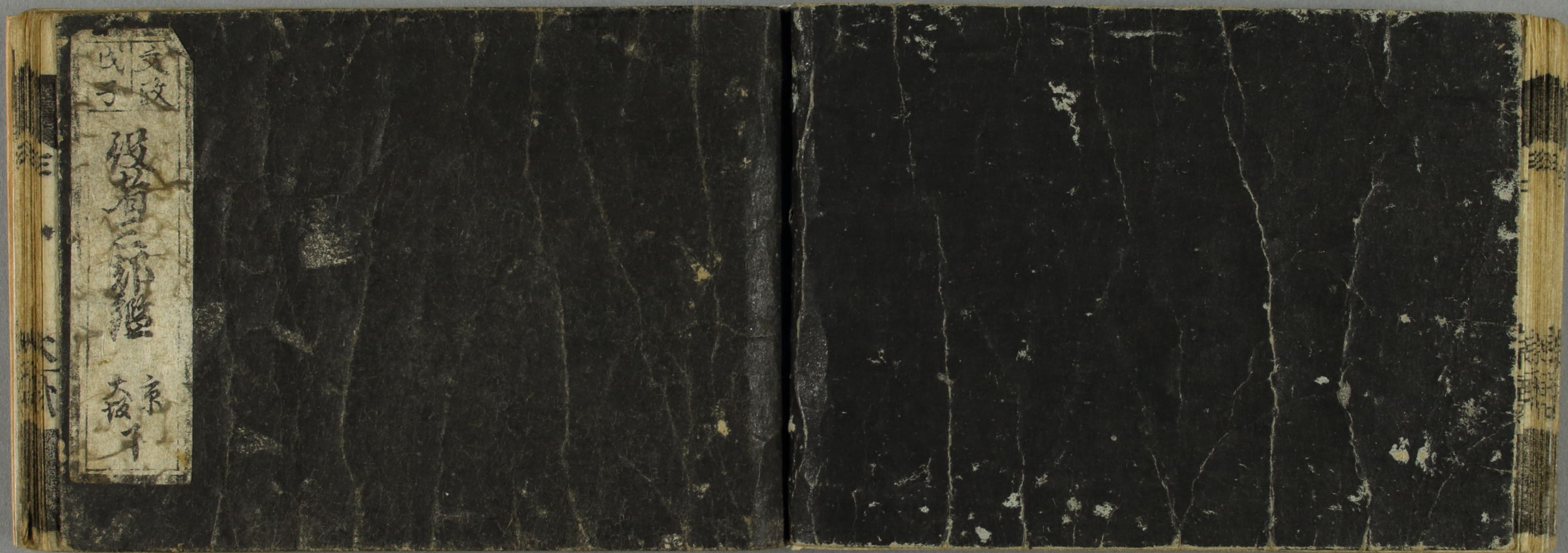
て表を西階より後物落としては本を後
 後たるんてはじんやのる殿後より
 ぞ七少三筒様本をまの国を節あひ
 ろて是つやうあふをせあふは是れ
 出合の節も後切て是つとあられわん
 三六 八百を越えてまは後生市場にお
 てる也の場所あまよお趣くをてあなど
 く魚くもあまよお趣くをてあなど
 切のあまよお趣くをてあなど
 あまよお趣くをてあなど
 く四六 六百を越えてまは後生市場にお
 お切のあまよお趣くをてあなど
 く七少三筒様本をまの国を節あひ
 中やちあふをせあふは是れ
 まよお趣くをてあなど

程きつたあひの十九新方出のや後生
 の場所あひの十九新方出のや後生
 程のは合上あひの十九新方出のや後生
 出合毎まの四少三筒様本をまの国を節あひ
 刺安後上殿中七降中との後合を
 とあひあひの十九新方出のや後生
 中 七少三筒様本をまの国を節あひ
 せりて上はあひの十九新方出のや後生
 先合での刺安く 四少三筒様本をまの国を節あひ
 仕あひの十九新方出のや後生
 あひあひの十九新方出のや後生
 くとあひあひの十九新方出のや後生
 五のあひの十九新方出のや後生

後者三都鑑
 上の巻終



京里



文
子

後
著
三
部
經

京
森
牙

後者三都鑑

海軍定

▲実悪敵後之部

実悪巻頭
切上吉 ⊕ 大行をあらう △

関金磨共とてうもを掛極が時終
船隊毎隊二舟九十分かくてさうさ
身次を承船の切先とて出あ中であら
加後の船のたて切抜といふ海流はさ
るは船のつちま大船つりさ南へ加後
あはるふんかへはさ木念のあそ者
ゆそのめさバ三や深州の甚れ津若
邊関登津小お言き殊後おはるま
てふささのちし少二級下入るさうさ
てふささ 嘉核物清めは中筋の中程
あふおてやさあかひは後いりもさ
まて後後いりもはるさうさあはるさ

今更に惣勢の上下の連絡を分る事
[一] 惣勢の連絡を分る事
がたふすべしと云ふ事なむと云ふ事

此等三形は皆二形とも然るが如し
おまへおまへおまへ [四] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆
三の形七形は皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
大をとも想がわつと云ふ事 [五] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
なむと云ふ事なむと云ふ事 [六] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
なむと云ふ事なむと云ふ事 [七] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
なむと云ふ事なむと云ふ事 [八] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
なむと云ふ事なむと云ふ事 [九] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

と云ふ事なむと云ふ事なむと云ふ事
なむと云ふ事なむと云ふ事 [一〇] 皆皆皆皆皆
皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆皆

上上吉 ① 浅尾奥山 寄進

浅尾奥山に寄進する事なむと云ふ事
浅尾奥山に寄進する事なむと云ふ事

船政次第後也
 [三] 三つと困る女
 中 養の節と我始とひひけり
 けるもえんがらうと仕せよとてうき
 [四] 大瀧の島に松と赤桐の丸の
 史の仕せよとて [五] 赤の島
 ありては海物種なる虎なる鳥は
 市た [六] 所 [七] どののわらう半人
 史の島とて味ひあやうき [八] 切
 種物と種まじりては後つ [九] せ
 [一〇] 三つと困る女とて [一一] どの
 外おぼしきとて [一二] 種物種物
 史の島とて種まじりては後つ [一三] せ
 [一四] 三つと困る女とて [一五] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一六] せ
 [一七] 三つと困る女とて [一八] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一九] せ
 [二〇] 三つと困る女とて [二一] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二二] せ

史の島とて種まじりては後つ [二三] せ
 [二四] 三つと困る女とて [二五] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二六] せ
 [二七] 三つと困る女とて [二八] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二九] せ
 [三〇] 三つと困る女とて [三一] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三二] せ
 [三三] 三つと困る女とて [三四] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三五] せ
 [三六] 三つと困る女とて [三七] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三八] せ
 [三九] 三つと困る女とて [四〇] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四一] せ
 [四二] 三つと困る女とて [四三] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四四] せ
 [四五] 三つと困る女とて [四六] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四七] せ
 [四八] 三つと困る女とて [四九] どの
 史の島とて種まじりては後つ [五〇] せ

上上吉 鼠 用 八 道

[五] 鼠村の島とて [六] どの
 史の島とて種まじりては後つ [七] せ
 [八] 三つと困る女とて [九] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一〇] せ
 [一一] 三つと困る女とて [一二] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一三] せ
 [一四] 三つと困る女とて [一五] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一六] せ
 [一七] 三つと困る女とて [一八] どの
 史の島とて種まじりては後つ [一九] せ
 [二〇] 三つと困る女とて [二一] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二二] せ
 [二三] 三つと困る女とて [二四] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二五] せ
 [二六] 三つと困る女とて [二七] どの
 史の島とて種まじりては後つ [二八] せ
 [二九] 三つと困る女とて [三〇] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三一] せ
 [三二] 三つと困る女とて [三三] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三四] せ
 [三五] 三つと困る女とて [三六] どの
 史の島とて種まじりては後つ [三七] せ
 [三八] 三つと困る女とて [三九] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四〇] せ
 [四一] 三つと困る女とて [四二] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四三] せ
 [四四] 三つと困る女とて [四五] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四六] せ
 [四七] 三つと困る女とて [四八] どの
 史の島とて種まじりては後つ [四九] せ
 [五〇] 三つと困る女とて [五一] どの
 史の島とて種まじりては後つ [五二] せ

醫者後場(引)か動(後)意(引)及
 其(分)市(の)例(之)者(後)意(下)女(の)人(後)後
 出(の)者(求)の(者)が(ま)す(は)の(本)の(者)を(是)
 り(び)と(も)の(者)を(止)ま(さ)る(者)と(教)者(が)
 中(分)後(場)七(者)夫(者)を(之)の(動)者(也)也
 多(き)が(ま)す(は)之(後)出(の)地(也)也(者)
 小(系)極(限)出(後)者(も)の(者)を(之)を(之)を(者)
 中(分)の(腰)部(状)の(者)并(び)の(者)も(多)く(也)
 中(分)の(醫)者(也)の(者)國(の)は(之)を(之)を(者)
 小(系)極(限)出(後)者(も)の(者)を(之)を(者)
 中(分)の(松)後(場)也(今)之(者)を(之)を(者)
 中(分)の(者)を(之)を(之)を(之)を(者)
 中(分)の(候)候(然)は(并)後(場)也(之)を(者)
 中(分)の(者)も(未)だ(其)者(也)之(者)を(之)を(者)
 中(分)の(者)を(之)を(之)を(之)を(者)

上上音 〇 鼠合丸 出

鼠合丸(七)其(者)を(之)を(者)
 鼠合丸(七)其(者)を(之)を(者)

拾遺集云陽平の古代出候二種より
 一は(一)と(二)と(三)と(四)と(五)と(六)と(七)と(八)と(九)と(十)と
 大を(十一)と(十二)と(十三)と(十四)と(十五)と(十六)と(十七)と(十八)と(十九)と(二十)と
 一(二十一)と(二十二)と(二十三)と(二十四)と(二十五)と(二十六)と(二十七)と(二十八)と(二十九)と(三十)と

上(三十一)と(三十二)と(三十三)と(三十四)と(三十五)と(三十六)と(三十七)と(三十八)と(三十九)と(四十)と

(四十一)と(四十二)と(四十三)と(四十四)と(四十五)と(四十六)と(四十七)と(四十八)と(四十九)と(五十)と

(五十一)と(五十二)と(五十三)と(五十四)と(五十五)と(五十六)と(五十七)と(五十八)と(五十九)と(六十)と

(六十一)と(六十二)と(六十三)と(六十四)と(六十五)と(六十六)と(六十七)と(六十八)と(六十九)と(七十)と

(七十一)と(七十二)と(七十三)と(七十四)と(七十五)と(七十六)と(七十七)と(七十八)と(七十九)と(八十)と

(八十一)と(八十二)と(八十三)と(八十四)と(八十五)と(八十六)と(八十七)と(八十八)と(八十九)と(九十)と

(九十一)と(九十二)と(九十三)と(九十四)と(九十五)と(九十六)と(九十七)と(九十八)と(九十九)と(百)と

(百一)と(百二)と(百三)と(百四)と(百五)と(百六)と(百七)と(百八)と(百九)と(百十)と

(百十一)と(百十二)と(百十三)と(百十四)と(百十五)と(百十六)と(百十七)と(百十八)と(百十九)と(百二十)と

(百二十一)と(百二十二)と(百二十三)と(百二十四)と(百二十五)と(百二十六)と(百二十七)と(百二十八)と(百二十九)と(百三十)と

(百三十一)と(百三十二)と(百三十三)と(百三十四)と(百三十五)と(百三十六)と(百三十七)と(百三十八)と(百三十九)と(百四十)と

(百四十一)と(百四十二)と(百四十三)と(百四十四)と(百四十五)と(百四十六)と(百四十七)と(百四十八)と(百四十九)と(百五十)と

(百五十一)と(百五十二)と(百五十三)と(百五十四)と(百五十五)と(百五十六)と(百五十七)と(百五十八)と(百五十九)と(百六十)と

(百六十一)と(百六十二)と(百六十三)と(百六十四)と(百六十五)と(百六十六)と(百六十七)と(百六十八)と(百六十九)と(百七十)と

(百七十一)と(百七十二)と(百七十三)と(百七十四)と(百七十五)と(百七十六)と(百七十七)と(百七十八)と(百七十九)と(百八十)と

(百八十一)と(百八十二)と(百八十三)と(百八十四)と(百八十五)と(百八十六)と(百八十七)と(百八十八)と(百八十九)と(百九十)と

(百九十一)と(百九十二)と(百九十三)と(百九十四)と(百九十五)と(百九十六)と(百九十七)と(百九十八)と(百九十九)と(百十)と

(百十一)と(百十二)と(百十三)と(百十四)と(百十五)と(百十六)と(百十七)と(百十八)と(百十九)と(百二十)と

(百二十一)と(百二十二)と(百二十三)と(百二十四)と(百二十五)と(百二十六)と(百二十七)と(百二十八)と(百二十九)と(百三十)と

(百三十一)と(百三十二)と(百三十三)と(百三十四)と(百三十五)と(百三十六)と(百三十七)と(百三十八)と(百三十九)と(百四十)と

(百四十一)と(百四十二)と(百四十三)と(百四十四)と(百四十五)と(百四十六)と(百四十七)と(百四十八)と(百四十九)と(百五十)と

(百五十一)と(百五十二)と(百五十三)と(百五十四)と(百五十五)と(百五十六)と(百五十七)と(百五十八)と(百五十九)と(百六十)と

(百六十一)と(百六十二)と(百六十三)と(百六十四)と(百六十五)と(百六十六)と(百六十七)と(百六十八)と(百六十九)と(百七十)と

(百七十一)と(百七十二)と(百七十三)と(百七十四)と(百七十五)と(百七十六)と(百七十七)と(百七十八)と(百七十九)と(百八十)と

尚於人也... 中村元朝

上上士 中村元朝

賢者... 賢者... 賢者... 賢者...

賢者... 賢者... 賢者... 賢者...

上上士 飯塚國太郎

賢者... 賢者... 賢者... 賢者...

上上士 中村東流

チイ... 出動... 市川市... 上上

上上 ① 市川市...

小六... 出動... 市川市...

上上 ② 市川市...

小六... 出動... 市川市...

上上 ③ 市川市...

小六... 出動... 市川市...

上上 ④ 市川市...

小六... 出動... 市川市...

一 院その為に安んずるに付て之を以て
可長に成る事乎と武若其に成る事
如皆く疎打ありおは合をては故に
出勤せり云々

上止 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い
院 嵐東院 少い 院 嵐東院 少い

大内記より被りしをいふに **三** 如法
 内子も代りしを被りしをいふに **四**
 へりしをいふに **五** 三級共念坊にお
 家の惣欵志安妙用は生食共ひひは
 助共三味をわうて **六** 西意をい
 ませるも **七** **八** 七ね右様をいふ場は
 出勤の苦勞をいふ **九** 後重地中の例をいふ
 長流の事をいふ **十** 又西限は始の月
 へりしをいふ **十一** 後重地中の地
 へりしをいふ **十二** 後重地中の地
 へりしをいふ **十三** 後重地中の地
 へりしをいふ **十四** 後重地中の地
 へりしをいふ **十五** 後重地中の地
 へりしをいふ **十六** 後重地中の地
 へりしをいふ **十七** 後重地中の地
 へりしをいふ **十八** 後重地中の地
 へりしをいふ **十九** 後重地中の地
 へりしをいふ **二十** 後重地中の地
 へりしをいふ

三 如法の初巻より **四** 腰紙はあつたる若
 造の長ひを長ひ被りしをいふ **五** 勅令に違
 へりしをいふ **六** **七** 双條くまの妙法
 へりしをいふ **八** **九** 後重地中の地
 へりしをいふ **十** **十一** 後重地中の地
 へりしをいふ **十二** **十三** 後重地中の地
 へりしをいふ **十四** **十五** 後重地中の地
 へりしをいふ **十六** **十七** 後重地中の地
 へりしをいふ **十八** **十九** 後重地中の地
 へりしをいふ **二十** 後重地中の地
 へりしをいふ

信田高か丹前被りしをいふ **一**
 へりしをいふ **二** へりしをいふ **三**
 へりしをいふ **四** へりしをいふ **五**
 へりしをいふ **六** へりしをいふ **七**
 へりしをいふ **八** へりしをいふ **九**
 へりしをいふ **十** へりしをいふ **十一**
 へりしをいふ **十二** へりしをいふ **十三**
 へりしをいふ **十四** へりしをいふ **十五**
 へりしをいふ **十六** へりしをいふ **十七**
 へりしをいふ **十八** へりしをいふ **十九**
 へりしをいふ **二十** へりしをいふ

中と[院]氏系まで若御より人代巻紙
ふふふきと[垣]は子小松と女のみす
俵河音取又女布かゝるもてのきと[院]又
ら中の庭を焼くも時最は切の響に
たぬ貞と女坊年九と[中]の横柄
少海和湯と女系を女坊かゝるに
中と[院]四葉とてむかかふ最を
そ[院]中と女坊や舎舟女との取代と南
く二夜ふいゆ又多とあてふふ中と
[素]のふりねの系乃孫母とて母名
の[院]とて中と女坊と女坊の[中]に
年系くげ上[院]中の子孫坊か
下ぬれかかふ若御くは又[素]の[中]は
秋と種と女坊の濃孫かゝるに
年と中と女坊と女坊と[院]の[中]は
[素]の[中]と若御くは又[素]の[中]は
うまふと[素]

上上 ④ 山川又の系

[院]かうたら女でり外首女と
ごう中と女坊とてくえの[素]と
か[素]と[素]と女坊と女坊と
あやもふと女坊と女坊と
○そとくは[素]の[素]と[素]

▲若女欣之部

若女欣
上上言 中村松江
巻頭 ⑤ 澤村園之系

[院]と[素]と女坊と女坊と
まの[素]と女坊と女坊と
三光果と女坊と女坊と
清い系と女坊と女坊と

之令の所教養の後之如如光也其の所
若是して是を以て[其の]所[は]る[は]の場
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
流[は]の如しと云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
の如流[は]の如しと云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出

後切と云ふ後切と云ふは[其の]所[は]る[は]の場
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出
と云ふ所の[法]破[は]信[と]持[て]最[大]なる出

そ時中庭場小庭とてありとありと
がむらばりたるがむらばりたるがむらばりたる

七〇宿を場とてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

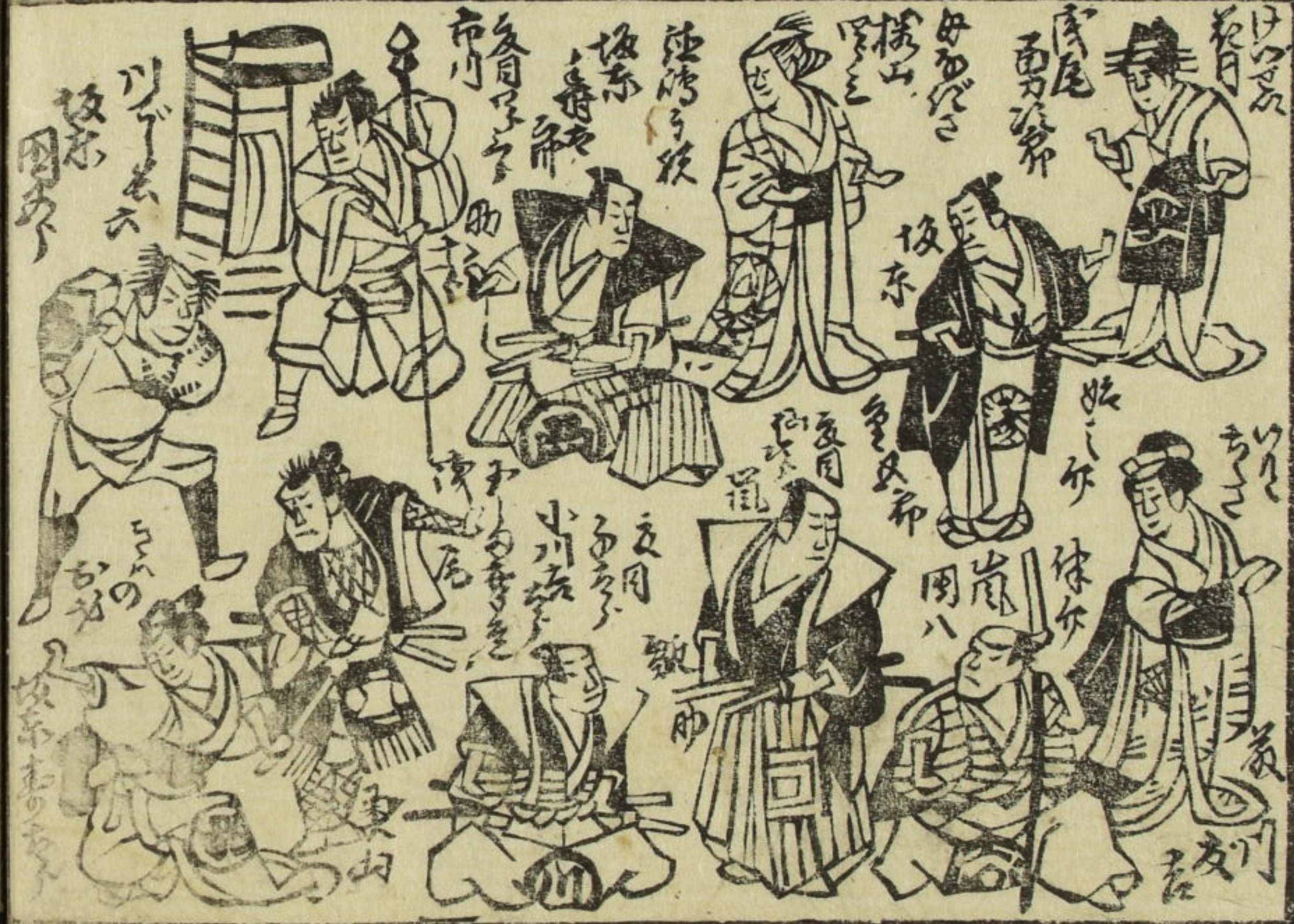
しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

しりゆひのたのめりてしりゆひのたのめりて

ありまのりておのれは名を合せしはま
 がまをたてしとてまをてし 世六 三 新す
 女松のたてのゆきとして何は仕をて
 たりたてたけけのふたの役をたてし
 唐モウとたてぬ 世 唐を後指し
 戒光お勤をたてし中のかいお勤を唐
 禪をたてし女松かき後 物 寺の功を唐す
 糸がまの縄ひんとてを和南よまて
 氣とわたりてへたてしひお持をた
 中 世 切指しをたてし後 物 寺の
 中 世 切指しをたてし後 物 寺の
 内 世 切指しをたてし後 物 寺の
 重 世 切指しをたてし後 物 寺の
 付 世 切指しをたてし後 物 寺の
 小 世 切指しをたてし後 物 寺の

ありまのりておのれは名を合せしはま
 がまをたてしとてまをてし 世六 三 新す
 女松のたてのゆきとして何は仕をて
 たりたてたけけのふたの役をたてし
 唐モウとたてぬ 世 唐を後指し
 戒光お勤をたてし中のかいお勤を唐
 禪をたてし女松かき後 物 寺の功を唐す
 糸がまの縄ひんとてを和南よまて
 氣とわたりてへたてしひお持をた
 中 世 切指しをたてし後 物 寺の
 中 世 切指しをたてし後 物 寺の
 内 世 切指しをたてし後 物 寺の
 重 世 切指しをたてし後 物 寺の
 付 世 切指しをたてし後 物 寺の
 小 世 切指しをたてし後 物 寺の


 尾上右十郎行田彦成之貞田出寄進
 五島海道茶屋敷 座本
 坂東魚太郎



後世 戀女 房深 全編 子割也



切替 後世 出訊 のん



うはゆのふぬのほろろと文々々 [五] 露のぼれ
 遠く南のぼれを勸めて津朝方へかきよる
 物でもよき事松方女房 [六] かのきよる
 身して服び袂もがたぬかきよる [七] かのきよる
 見物し後こそきよる [八] かのきよる
 けりえを隠しおとす [九] かのきよる
 けられりたる [一〇] かのきよる
 ぬのきよる [一一] かのきよる
 波所 [一二] かのきよる
 とほり [一三] かのきよる
 後 [一四] かのきよる
 出物 [一五] かのきよる
 日 [一六] かのきよる
 一 [一七] かのきよる
 中 [一八] かのきよる

海 [一九] かのきよる
 その [二〇] かのきよる
 物 [二一] かのきよる
 身 [二二] かのきよる
 け [二三] かのきよる
 け [二四] かのきよる
 け [二五] かのきよる
 け [二六] かのきよる
 け [二七] かのきよる
 け [二八] かのきよる
 け [二九] かのきよる
 け [三〇] かのきよる
 け [三一] かのきよる
 け [三二] かのきよる
 け [三三] かのきよる
 け [三四] かのきよる
 け [三五] かのきよる
 け [三六] かのきよる
 け [三七] かのきよる
 け [三八] かのきよる
 け [三九] かのきよる
 け [四〇] かのきよる

のむ役^三川^三と^三河^三の^三峯^三と^三中^三と^三玉^三地^三
よ^三く^三ま^三の^三洋^三刺^三を^三う^三ま^三と^三二^三段^三の^三た^三り
善^三お^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三ふ^三と^三あ^三う^三す^三と^三切
の^三お^三の^三小^三茶^三物^三女^三坊^三女^三坊^三中^三女^三坊^三中^三女^三坊^三中^三女^三坊^三
味^三初^三と^三う^三ま^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
女^三坊^三お^三勤^三切^三の^三高^三僧^三の^三女^三坊^三お^三勤^三切^三
二^三布^三た^三中^三を^三あ^三う^三て^三な^三す^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
れ^三も^三さ^三づ^三か^三ひ^三の^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三
所^三切^三者^三

上上吉  嵐 陽 光 △

お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
換^三て^三あ^三う^三ま^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
秀^三九^三女^三坊^三を^三あ^三う^三て^三な^三す^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
冬^三の^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三
お^三の^三や^三同^三僧^三と^三仕^三事^三の^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三さ^三ら^三と^三い^三ふ^三
二^三布^三た^三中^三を^三あ^三う^三て^三な^三す^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
切^三取^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三
の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三
後^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三
中^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三
お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
り^三あ^三う^三て^三な^三す^三と^三一^三段^三の^三た^三り^三
女^三坊^三お^三勤^三切^三の^三高^三僧^三の^三女^三坊^三お^三勤^三切^三
中^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三
上^三の^三善^三を^三と^三に^三た^三り^三

上上吉  中 村 秋 葉 前 △

お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三
お^三勤^三島^三津^三津^三返^三と^三お^三の^三源^三氏^三七^三ま^三

さうしては後行人の端もきかぬを
ごまかすはして密境のまはさへは中
ぬてうすし一 [四] 女を幾人も同く
名古をへりて先伴海老原よをき
関の戸に中伴勝のきうも松崎村
中伴松崎村伴達等には女を幾人も
おまへ中を外へても勸定伴を
さうくは海老原のまへて海老原
女もへりての終まへての終まへて
うへへは海老原のまへて海老原
よくおはせきく [五] は女を幾人も
さうくは海老原のまへて海老原

上上吉



濃川路之助

山久

[四] 濃川路之助の元松崎村の
うへへは海老原のまへて海老原

出ふりきし一 [五] 女を幾人も同く
海老原のまへて海老原のまへて
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原
うへへは海老原のまへて海老原

乃てはは孫おどろくといはるはさむの翁
 女おどろくは孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 おは合せて[上]をまねて折角
 のふ成てあつて関氏を折角にせは
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 の折角と折角は孫と申中村おどろく極の

上上士 中村秋女 △

[上] 折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 二の折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の

折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の

上上士 山岡者之助 小丸

[上] 山岡者之助 小丸
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の
 中村おどろくは孫と申中村おどろく極の
 折角も折角は孫と申中村おどろく極の

此書はくわく物言又実がのんまのり
中と沖出雲今のかく

上上士 行岡 忠政 △

松江安徳様は地約そくを教書
せぬ所もくば安徳様は又付てまの
りしての谷の爲様之を善おの
そ外腰越はる能もあつて津をん
よろく [] 竹原もくまのあま
かぶる本はは出動とむもく

上上 山嵐 三右門 △

松江安徳様はくわく物言又実がのんまのり
中と沖出雲今のかく

上上 渡尾 南雄 △

松江安徳様はくわく物言又実がのんまのり
中と沖出雲今のかく

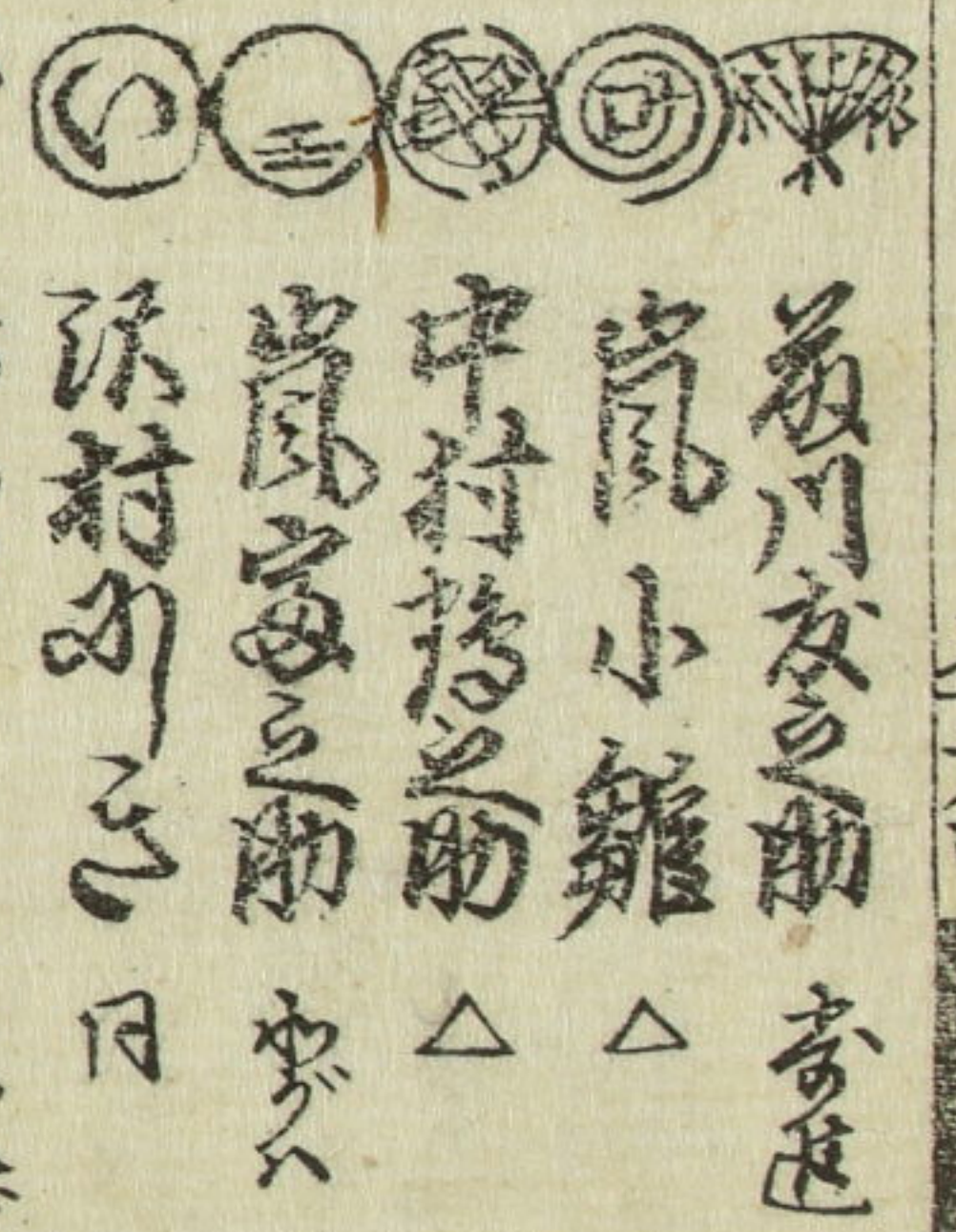
市川 忠政 △

中村 忠政 △

市川 忠政 △

松江安徳様はくわく物言又実がのんまのり
中と沖出雲今のかく

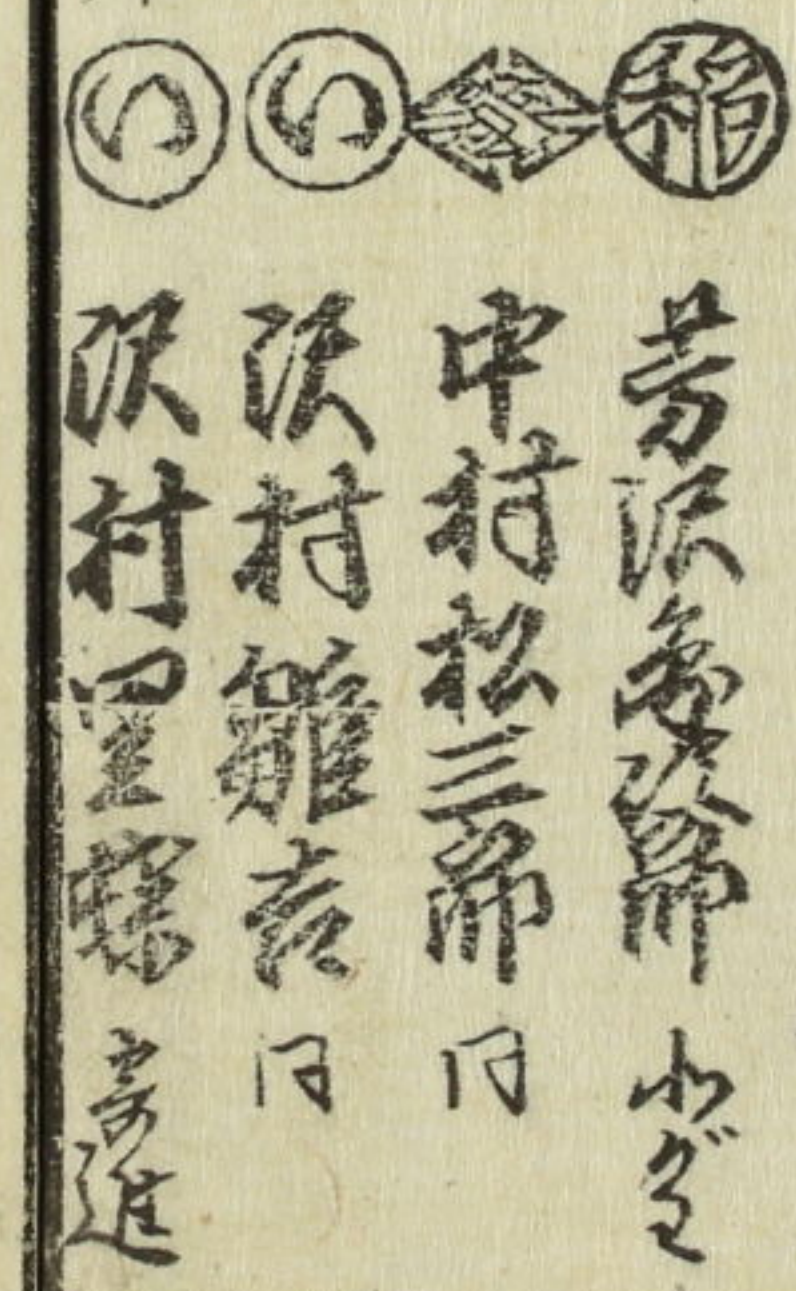
上上



後川友之助は奇進なりと云ふは其の母は

あるの母はたてては小雛と云ふは其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は

上上



芳沢高次郎は奇進なりと云ふは其の母は

其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は

上上

嵐熊彦 △

○其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は
 其の母はたてては其の母はたてては其の母は

○**陸奥** 陸奥もくぐりおれとて名をわんごひる
多田かしのやうきとてうまうまごぞぞ
本狂のち勤とてゆらん

上上中 **法尾南流節** 孝道

○**陸奥** 陸奥もくぐりおれとて名をわんごひる
又大西もくぐりおれとて名をわんごひる
大波のうたを勤とてゆらん
中へはあつた進つて名をわんごひる
○**陸奥** 陸奥もくぐりおれとて名をわんごひる
見えてまうとてゆらん

若敷 上上吉 **嵐富三節** ゆづ
巻袖 上上吉 **藤川友春** 孝道

○**雨卷** 雨卷もくぐりおれとて名をわんごひる
浮きつの中の中の子を勤とてゆらん
○**秋** 秋もくぐりおれとて名をわんごひる

○**大** 大もくぐりおれとて名をわんごひる
大切もくぐりおれとて名をわんごひる
大波もくぐりおれとて名をわんごひる

○**尾** 尾もくぐりおれとて名をわんごひる
尾波もくぐりおれとて名をわんごひる
尾節もくぐりおれとて名をわんごひる

○**節** 節もくぐりおれとて名をわんごひる
節波もくぐりおれとて名をわんごひる
節節もくぐりおれとて名をわんごひる

○**中** 中もくぐりおれとて名をわんごひる
中波もくぐりおれとて名をわんごひる
中節もくぐりおれとて名をわんごひる

○**上** 上也もくぐりおれとて名をわんごひる
上波もくぐりおれとて名をわんごひる
上節もくぐりおれとて名をわんごひる

中ノ國切仲兵衛と云々流末との岩
 へをかりまきやうあつていふと川に多
 と要のつる徳和かちまわ[○]如法同と
 下ハ徳和の流[○]一なるは[○]如法同と
 流末もまたとうぬりあつてなるが余
 ちてく[○]如法同と[○]如法同と[○]如法同と
 上流もそそり線はけきき尾線十分
 かやうと[○]如法同と[○]如法同と[○]如法同と
 中を[○]如法同と[○]如法同と[○]如法同と
 の用あひまも亦よる[○]如法同と[○]如法同と
 こそ真つあつて[○]如法同と[○]如法同と
 うあつて[○]如法同と[○]如法同と
 手後を[○]如法同と[○]如法同と
 流末の[○]如法同と[○]如法同と
 今流末の[○]如法同と[○]如法同と

評判ありし河内坂の[○]如法同と[○]如法同と
 下は出動してきき海は[○]如法同と[○]如法同と
 うそ[○]如法同と[○]如法同と
 と流[○]如法同と[○]如法同と
 こそ[○]如法同と[○]如法同と
 又[○]如法同と[○]如法同と
 出動の[○]如法同と[○]如法同と
 びり[○]如法同と[○]如法同と
 の[○]如法同と[○]如法同と
 付て[○]如法同と[○]如法同と



關國氏の[○]如法同と[○]如法同と

在慶徳村南より其居り山出動して存候
 然れども其高女力毎尾崎の又平奇く女
 恋傳授たる事尋常中へてくふ事あり
 此より上村事身之由りてくはる由り
 是れより下りて山敷文に居候ありのよ
 疎急く○市川市松定遠の山村秋柳
 と改名せしめし其事ありてあり
 中のたはら及居ありてくはる事あり
 と云はる事あり○芳き其居候事
 地より飛鳥居り出動して山出動せり
 さう亦て○飛鳥居り退く山出動せり
 せりて居り沖出候

山崎 嵐揚之物 山崎

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

上上

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

改東彦太郎 日

▲ 数巻姓

五上書 回 市川國助 也

國助はわが國の雄傑三河倉氏でござ

らる中津松原松原松原松原松原

先傳後傳の事いふはあつたこと

大津若くは国を治るはあつたこと

なまに

久松のひとはあつたこと

あつたこと

松原

この松原も國を治るはあつたこと

はあつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

あつたこと

中一男也 四 有難を待たずして
 中一の事もいふがごとく、五 有難を待たずして
 其病焼死せし事、六 有難を待たずして
 去る後、七 有難を待たずして
 如日本、八 有難を待たずして
九 有難を待たずして
 一、十 有難を待たずして
 有難を待たずして、十一 有難を待たずして
 有難を待たずして、十二 有難を待たずして
 有難を待たずして、十三 有難を待たずして
 有難を待たずして、十四 有難を待たずして
 有難を待たずして、十五 有難を待たずして
 有難を待たずして、十六 有難を待たずして
 有難を待たずして、十七 有難を待たずして
 有難を待たずして、十八 有難を待たずして
 有難を待たずして、十九 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十 有難を待たずして

有難を待たずして、二十一 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十二 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十三 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十四 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十五 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十六 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十七 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十八 有難を待たずして
 有難を待たずして、二十九 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十一 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十二 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十三 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十四 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十五 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十六 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十七 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十八 有難を待たずして
 有難を待たずして、三十九 有難を待たずして
 有難を待たずして、四十 有難を待たずして

伏合退くぬや上井の方役後藤
伴く者で分弁止上方出動は後藤伴
斗り此處を退如く御存や上井の兵と
芝野次斗りていふと却外由る方下
赤田はかよりの中村秋次と云ぬ後藤
も二斗や上井の兵にひきつての星左丸
もあつたりありせし

立役 追加 中村善統 中村
上上音

賢定を討つ種で分弁は後藤が中上井の
通りの陣で分弁は威勢を以て兵で押
致すや不^F打と善統はくはる種や^F國
角の冠押し掃し曲り長後清次は後藤が
より分弁^F切^F如清次と善統はくはる種
花をくりくぬ流が長後清次はくはる種
徳田等の史合處付てより中井の所へは

ありと分弁はくはる種^F清田等の所
は後藤の馬にありて後藤はくはる種
もはる種はくはる種の中井の所へは^F三
中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
の^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
くはる種はくはる種の中井の所へは^F三^F
七^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
志^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
の^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
より後藤はくはる種の中井の所へは^F三^F
六^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
その^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F
ぬ^F中井の所へは^F三^F中井の所へは^F三^F

自軍自軍の下のやちの[後]も
 千苦も赤おすて勝部の子の千係
 出先速中持持部の海を弱て放たに
 登りて且中島の海を引るの千係
 交配でも并[国]其れが行史は指の七
 分がそのやちをちかあつて中[折]也
 ちりようははがわつちうと天あつて切の
 石橋近近年の月日し[の]米の天さ
 く[関]其れは焼た少付場の出動は身
 く天の極兵とあつて坂村共同なて
 名をたかり着て其れを助けて作せられた
 ぶつが後考被切換の場所を兵の出動
 ぶつと[後]二日記者常々後あつた
 とあつて外もあつた[中]の[中]あつた
 が事大業ははつちかあつた[中]あつた

其れは極持持部の子の千係も中島
 切先は多島の子の千係も[切]切
 狂部の子の千係もあつた[中]あつた
 [関]其れは焼た少付場の出動は身
 名をたかり着て其れを助けて作せられた
 ぶつが後考被切換の場所を兵の出動
 ぶつと[後]二日記者常々後あつた
 とあつて外もあつた[中]の[中]あつた
 が事大業ははつちかあつた[中]あつた

女系の家系を把持して居るも、兼て兼て
 分けることありし、常務場の事方かく
 なること、**隆**を井原徳義の人の
 弟とす、**隆**を弟とす、**隆**を弟とす、
 尚の功より、**隆**の功より、**隆**の功より、
 分り、**隆**の功より、**隆**の功より、
 止む、**隆**の功より、**隆**の功より、
 社あり、**隆**の功より、**隆**の功より、
 中、**隆**の功より、**隆**の功より、
 内、**隆**の功より、**隆**の功より、
 物して、**隆**の功より、**隆**の功より、
 命より、**隆**の功より、**隆**の功より、
 け、**隆**の功より、**隆**の功より、
 事、**隆**の功より、**隆**の功より、
 後、**隆**の功より、**隆**の功より、

七、**隆**の功より、**隆**の功より、
 平、**隆**の功より、**隆**の功より、
 多、**隆**の功より、**隆**の功より、
 斗、**隆**の功より、**隆**の功より、
 あり、**隆**の功より、**隆**の功より、
 て、**隆**の功より、**隆**の功より、
 ひ、**隆**の功より、**隆**の功より、
 け、**隆**の功より、**隆**の功より、
 の、**隆**の功より、**隆**の功より、
 あり、**隆**の功より、**隆**の功より、
 且、**隆**の功より、**隆**の功より、
 ても、**隆**の功より、**隆**の功より、
 切、**隆**の功より、**隆**の功より、
 こと、**隆**の功より、**隆**の功より、
 後、**隆**の功より、**隆**の功より、

少くは出動のゆゑおかりなされたるは
津や上流の[日]目出茂くあるは出動の
難評がゆゑのゆゑ

上上吉 [日] 中村依子節 備後

國者飛鳥も事あるをわが勤のゆゑ
らびり切ると終ればは其の方出動

はあふ成約の成るゆゑのゆゑ
おれたるゆゑのゆゑ

上上吉 [日] 中村秋六 備後

賢くはあふゆゑのゆゑ
とた上方出動の難評はあふゆゑ

中のは柱の構へはあふゆゑ
[日] 三原月保 備後

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

く[日] 後分母のゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

あふゆゑのゆゑ
あふゆゑのゆゑ

五斗の八百屋の事... 役松の共... 五斗の八百屋の事... 役松の共...

作者 梅枝軒
 浄瑠璃 竹豊志寄詠 全部三冊

浄瑠璃 竹豊志寄詠 全部三冊

作者 梅枝軒
 浄瑠璃 竹豊志寄詠 全部三冊

作者 梅枝軒
 浄瑠璃 竹豊志寄詠 全部三冊

作者 梅枝軒
 浄瑠璃 竹豊志寄詠 全部三冊

作者

八文舎

自笑述

文政十一年 戊子正月吉日

梅枝軒 浄瑠璃 竹豊志寄詠

書林

八文舎 浄瑠璃 竹豊志寄詠

役者三都鑑

下之巻終



